卒業論文

# 不確実情報伝播時の意思決定パターンと性差

平成 20 年入学
九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

平成 24 年 1 月提出

要旨
本論は、情報の真偽が不確実な情報を伝播する際、その意思決定パターンが性別によってどのような差異を見せるか、流言に関する理論のレビューとプレ調査を含めた全5回の聞き取り調査を通した分析で論じている。
第一章では、流言の理論を扱うにあたり、流言とその類義語として用いられている言葉である「噂」、「デマ」の定義を行い、それらの言葉に共通する性質を指摘した。
第二章では、流言に関する理論を、流言になりうる「情報」、流言の伝播する「過程」、流言を伝播する際の「理由」、そして流言を用いた研究の手法という4つの観点からレビューを行った。これに加え、流言自体がもう既に伝播し終えたもの、もしくは既に正しくないと指摘されている情報が「流言」であると定義されるという、事後的に定まる性質があると論じた。その上で、流言研究自体は先に挙げたように、コミュニケーションの場面でどのように伝播するかなどの、流言の持つ事後的な性質とはやや離れたものである事を挙げ、流言研究は流言にのみ当てはまるものではなく、コミュニケーション一般においても当てはまる可能性があり、その場合には流言の理論とは言えなくなるのではないかと言う問題点を挙げた。
第三章は、第二章までの内容を踏まえつつ、これまでの流言研究があまり論じなかった、情報が遮断される行為、特に正しいとされる情報が遮断される行為を「無言のデマ」と名付けて述べ、「無言のデマ」の存在を念頭に入れた調査を行う際に真偽不確実情報の意思決定時に着目した調査を行う事、情報の受け手と伝え手の利害関係に着目する事の意義を論じた。
第四章はまず、調査と分析の手法について、第三章で挙げた不確実情報の意思決定、伝え手と受け手の利害関係に着目すると共に、情報の性質を分類する事や、意思決定のモデルの形成する事などを行った。その上でプレ調査を実施し、その結果から本調査の枠組みを作成し、性別が意思決定に与える影響に着目して分析を行う事を述べた。
第五章から第八章では実際に行った聞き取り調査の結果とその内容の分析を行っている。
第五章では、伝え手が損をし、受け手が得をする情報における意思決定を調査した第1回調査の結果、性別によって意思決定の様相が異なる事、情報の伝え手が損をし、受け手が得をするような情報の場合、伝え手が損をする事をあまり考慮しない事が判明した事を論じている。

第六章では第1回調査と同様の情報を扱った第2回調査により、伝播時の意思決定で、男性は情報の真偽不確実さが与える影響を、女性は情報自体の内容が与える影響を重視している傾向にあると論じた。
第七章では、前2回の調査とは異なる、伝えた際に情報の伝え手が得をし、受け手が

損をする真偽不確実な情報を扱った第 3 回調査から、伝える際に受け手が損をする事はある程度考慮されるが、伝え手が得をする事は考慮されない事が分かった。加えて、情報を伝播する際には相手がどのような反応をするのかを意思決定時に考慮する傾向にある事もみられた事を論じている。

第八章では、第 2 回までの情報を用いた第 4 回調査から、男性は伝え手自身が相手からどのように評価を下されるかを重視し、女性は受け手が伝えた情報をどのように考えるかを重視している傾向ある事を論じている。

第九章では、五章から八章までの知見をまとめつつ、男性は自らのアイデンティティの拠り所を自分自身に置く傾向があり、そのため自身の評価を下げないように情報の真偽を重視している事が分かった。一方、女性はその拠り所を相手との関係においている傾向が分かり、その結果、女性が真偽不確実な情報を伝える際、受け手がその情報に対してどのような反応をするかを重視し、相手がなるべく良い反応をとられるように、情報自体の内容の面白みや有益さを重視している事が分かった。その上で、性別によって伝播しやすい情報や「無言のデマ」になりやすい情報が異なる事も論じている。

最後に本論のまとめと課題点、特に性別がある行為に影響を及ぼす可能性がある事を論じる際、それは性別以外に替わりようがないのか、それとも性別が他の要因に影響を及ぼし、その要因が行為に影響するのかといった議論を行い、本論を締めくくっている。

－目次－

はじめに
第一章　流言とその類義語の定義
(1)　「流言」の定義 /2
(2)　「デマ」の定義 /3
(3)　「噂」の定義 /3
(4)　「流言」・「噂」・「デマ」の持つ特徴 /4

第二章　流言に関する諸理論のレビュー
第一節　流言に関する諸理論の整理
(1)　流言になりうる「情報」について /5
(2)　流言の伝播する「過程」について /7
(3)　流言を伝播する際の「理由」について /12
(4)　その他の理論について /16
第二節　流言の諸理論の問題点 /18

第三章　「無言のデマ」 /23

第四章　調査枠組みとプレ調査
第一節　調査枠組み /25
第二節　プレ調査 /29

第五章　第 1 回本調査
第一節　第 1 回本調査実施概要 /32
第二節　第 1 回本調査結果概要 /34
第三節　第 1 回本調査の分析と考察
(1)仮説 $H_1$ について /37
(2)仮説 $H_2$ について /39
(3)調査結果のまとめと次回調査の仮説設定 /40

第六章　第 2 回本調査
　第一節　第 2 回本調査実施概要 /42
　第二節　第 2 回本調査結果概要 /43
　第三節　第 2 回本調査の分析と考察
　　(1)　仮説 $H_3$ について /45
　　(2)　仮説 $H_4$ について/46
　　(3)　第 2 回調査のまとめと仮説形成 /47

第七章　第 3 回本調査
　第一節　第 3 回本調査実施概要 /49
　第二節　第 3 回本調査結果概要 /50
　第三節　第 3 回本調査の分析と考察
　　(1)　仮説 $H_5$ について /52
　　(2)　仮説 $H_6$ について /53
　　(3)　仮説 $H_7$ について /53
　　(4)　仮説 $H_8$ について /54
　　(5)　第 3 回調査のまとめと仮説形成 /54

第八章　第 4 回本調査
　第一節　第 4 回本調査実施概要 /57
　第二節　第 4 回本調査結果概要 /58
　第三節　第 4 回本調査の分析と考察
　　(1)　仮説 $H_9$ について /59
　　(2)　仮説 $H_{10}$ について /60
　　(3)　仮説 $H_{11}$ について /60
　　(4)　第 4 回調査のまとめ /61

第九章　全体のまとめと考察 /62

おわりに
参考文献・資料一覧

付録
(1)調査票
(2)聞き取り調査内容